

43年前(昭和31年)  
北伊丹、春日丘かいわい

このかいわいは、かつて「北村」とよばれ、枝郷として「鑄物師」「伊丹坂」「辻」「野」の四村があったといわれている。鑄物師には奈良時代建立で国指定文化財の「伊丹廃寺」また北伊丹一丁目にあたる旧辻村の中心部は、旧西国街道と多田道とが交差するところで、攝津の中心といわれ、それを示す古い碑がある。現在は北村と辻村が北伊丹となり、ほかに緑ヶ丘と北園ができた。鑄物師はそのまま残り、伊丹坂村と野村は春日丘、高台、清水となった。北村と四つの村を合わせて「北村」と呼んだ時代もあり、かなり広い地域だった。

でぶどう、桃の産地として名高く、とくにぶどう、なかでも「北村ぶどう」は当時、一世を風靡(ふうび)した。そのぶどうや桃畑は現在の北伊丹、そして高台、春日丘、緑ヶ丘にまで広がっていた。しかし戦後はほかの地区の新しい品種のぶどうにおされて、姿を消してしまった。北伊丹地区の人たちは、二年ほど前、同地区にわずかに残っていた北村ぶどうから苗をつくり、北伊丹センター前に植えて、こうした歴史を次代の人たちに語り継ごうとしている。

今、春日丘から北へミノルタ伊丹工場前へとし字型に走るのが、昭和の初めからのバス道。住宅化が進んでかつての面影は、ほとんど残っていない。



北伊丹 | 丁目から西へ伊丹坂を望む旧西国街道



かつてはぶどうやもも畑だったミノルタ伊丹工場付近